

令和3年度 第2回 釧路管内地域いじめ問題等対策連絡協議会だより

発行：釧路管内地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局（釧路教育局）

令和4年2月4日（金）、釧路管内におけるいじめ・不登校等の生徒指導上の諸課題への対策の推進を図ることを目的に、学校や各関係機関等の代表者がWeb会議システムを通じて一堂に会し、令和3年度 第2回釧路管内地域いじめ問題等対策連絡協議会を開催しました。

事務局（釧路教育局）から「全道及び管内の児童生徒の生徒指導上の諸課題」について説明した後、本年度の重点に係る取組の発表や本年度の重点を踏まえた取組の改善に係る協議等を行いました。

本協議会で話し合われた内容等について紹介します。



発表： 援助希求的態度の育成に向けた自殺予防教育の充実について

北海道弟子屈高等学校 橋 詰 絵 夢 養護教諭

- ・コミュニケーション能力や援助希求的態度の育成に当たり、教育課程に自殺予防教育プログラム等を系統的に位置付け、SCと連携を図り指導している。
- ・アセスメントツールの結果から生徒の課題を把握し、校内組織で検討した支援を行うとともに、全校面談の実施や放課後の居場所づくりにより教育相談体制を充実させている。

発表： いじめ、不登校の早期発見・早期対応に向けた取組の充実について

釧路町教育委員会 國 井 彩 子 指導主事室長

- ・SC、SSWを構成員として位置付けた「学校いじめ対策組織」においていじめの問題への対応を協議するとともに、いじめアンケートの結果等を保護者、地域に周知し、各校の取組や児童生徒の課題について理解を促している。
- ・不登校に関する支援プロセス、ガイドラインに基づき、欠席が続き始めた早期から、児童生徒に対し学校と町教委、SC、SSW、専門的な機関が連携して組織的な支援を行っている。

協議： 本年度の重点を踏まえた取組の改善について

- ・児童・生徒会におけるいじめの未然防止に向けた取組が定着し、内容も充実している。増加傾向にある不登校児童生徒への対応として、校内組織等の活性化や専門的な機関との連携が大切である。（小・中学校、特別支援学校）
- ・生徒の援助希求的態度を育成するとともに、生徒が教師にSOSを発信できる取組を推進している。コロナ禍においても、人間関係を築く力を育成するホームルーム活動や学校行事等の内容を検討する必要がある。（高等学校）
- ・メディアから得た情報や知識がいじめに繋がらないように指導している。また、保護者との相談の機会を増やし、状況に応じて専門的な機関と繋ぐことが大切である。（幼稚園）
- ・非行防止の取組として、SNSやフィルタリングサービス、カラオケボックス等の利用状況の調査を各企業、関係団体と連携して行っている。（釧路総合振興局）
- ・児童生徒からは友人や家族、教師との関係等についての相談、保護者からはゲーム・スマホ依存や不登校に加え、コロナ禍における家庭状況等についての相談があり、相談件数は増加している。（家庭支援センター、フリースクール）

まとめ： 本年度の取組の総括及び次年度の取組の充実に向けて

北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム員 室 山 俊 美 教授

- ・教師は、いじめの問題や不登校等についての専門家であることを改めて自覚する必要がある。
- ・いじめや不登校の未然防止に向けて、良質なコミュニケーションと協働的な雰囲気のある集団づくりを行い、児童生徒の適応感を高めることが大切である。
- ・不登校の未然防止、早期対応に向けて、「なぜ不登校にならないのか」という視点から考えることにより、どのような取組を推進するとよいか明確になってくる。
- ・取組の充実に向けて、課題等を踏まえて重点化を図り、共通理解の下に学校全体で一斉に推進していく必要がある。

